

『紡ぐ』

2021.2.15 第18号

発行 教育相談室「あした塾」

連日の新型コロナウイルス関連の報道。不自由な生活が続いています。なんとか早く終息してほしいですね。“明けぬ夜はない。”“雨はいつかあがる。”などの言葉通り、さとお天がな日々来ると思います。

季節はまちがいはなく春です。雪が溶けた2月2日、いつせいかカエルが動き出しました。池を見るとカエルの卵がいっぱい...

春は来ています。

春は来ています!



(2月2日撮影)

投稿

梶 望木正武

年賀状、コンレ限りと同期生

さんどもまだまだ同調はせぬ

コロナ禍の閑のなぐさめ三毛の猫

ハムをもう一枚とねだりつつ書く

遠藤あしら!

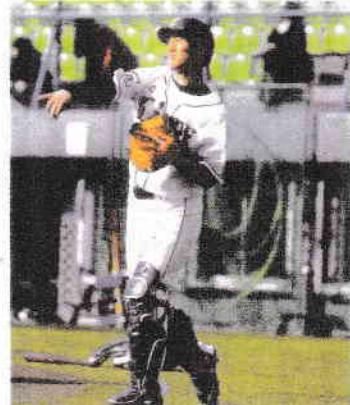
大相撲初場所。遠藤関は7勝3敗でした。勝つていく相撲が何着かありさしから惜しい場所でしたね。兄弟子の大栄翔関が優勝しているだけに、地元石川としては受ける奮起を期待しています。頑張れ! 遠藤!!



14日、御嶽海を破水一番。強い遠藤でした。(北陸新聞)

一軍の野球選手

プロ野球、阪神タイガースの穴水出身、牧野翔矢選手は3年目の春を迎えました。昨年は骨折の手術、リハビリと大変でしたが、今年の春季キャンプは、ついに一軍で臨むことになりました。正捕手、秋山選手の後継者候補筆頭として期待されています。一軍デビュー期待大です。頑張れ! 牧野!!



地域を元気に 前波地区 屋号の表れ

所要で諸橋の前波に行きました。訪問先の玄関で、「あれ!？」と見て表れらしきものが目に入りました。「しょうぎぶろ」(?) 何だろうと、よく見ると「しょうぎぶろ」ではなく「しやうぎぶろ」でした。不在でしたので、向かいの家に行き様子を聞こうと思い、その家の前に立つと、そこにも「えめじま」の表れが...。聞いてみると、これは屋号(家号)だとのこと。なぜ、こんなものを...と不思議に思い、(住人の話から)仕掛け人の坂谷吉春さんにお話を聞いてみました。

この「地域を元気に」の記事は、平成27年10月15日付『あした塾だより』第81号に掲載したものです。地域の活動の一つとしてあらためて掲載することにしました。
(当時の北国新聞11月4日付でも報じられました。)



子どもたちにも この文化を

坂谷吉春さんの話では、前波地区には「月陽会」という集まりがあって、偶数月に皆さんが集まってワイワイやるとのこと。その集まりの中で、「地域を元気にするため何かやってしよう」という話になり、「屋号を表れにしよう。子どもたちも屋号なんて知らなくなっているし、これを忘らわけてしまうのはさみしい。」と話が始まり、この取り組みが進められたとのことでした。20軒ほどの家でやめられ、その後16軒ほど注文が来ているようです。(当時の表現のまじり掲載)

あらためて聞いてみました

当時、とても素晴らしい取り組みだと思い記事にしたのですが、現在、どうなっているのか気になって坂谷さんにお聞きしたところ、「このごろのこともあり、活動は少し停滞している気になっている。若者たちが、また動き出したい。」とのことでした。皆さん、ぜひ頑張ってくださいね。(T)

